聞（もん）
第76号
編集発行
真宗大谷派 本龍寺
安城市和泉町
TEL.0566-92-0505
和泉の本龍寺　検索

救いとは、現実を引き受けること

住職　樋口祐慈

「元服（げんぷく）」

僕はことし三月、担任の先生から奨められてA君と二人、○○高校を受験した。○○高校は私立であるが、全国の優等生が集ってきているいわゆる有名高校である。担任の先生から「君達二人なら絶対だいじょうぶだと思う」と強く奨められたのである。僕等は得意であった。父母も喜んでくれた。先生や父母の期待を裏切ってはならないと、僕はもうれつに勉強した。ところが、その入試でA君は期待通りパスしたが、僕は落ちてしまった。得意の絶頂から奈落の底へ落ちてしまったのだ。何回かの実力テストでは、いつも僕が一番で、A君がそれに続いていた。それだのに、その僕が落ちてA君が通ったのだ。成績の下の方が通ってしまったのだ。だれの顔も見たくない、みじめな思い。自分の部屋にとじこもっている僕のために、父母が僕の好きなものを運んでくれても優しい言葉をかけてくれても、それがみんな余計に癪（しゃく）にさわった。何もかも叩きこわし引きちぎってやりたい怒りに燃えながら布団の上に横たわっている時、母が入って来た。「Aさんが来て下さったよ。」と。僕は言った。「母さん、僕はだれの顔も見たくないんだ。特に世界中で見たくない顔があるんだ。世界中で一番憎い顔があるんだ。誰の顔か言わなくたって分っているだろう。と言っておいて母は出ていった。入試に落ちたこの惨めさを、僕を追いこしたことのない者に見下される。こんな屈辱ってあるだろうかと思うと、気が狂いそうになった。二階にあがって来る足音が聞える。布団を被って寝ている、こんな惨めな姿なんて見せられるか、胸を張って見据えてやろうと僕は起き上った。戸が開いた。中学の三年間A君がいつも着ていたよれよれの服のA君。涙を一杯ためたA君がくしゃくしゃ顔で「B君、僕だけが通ってしまってごめんね…。」やっとそれだけ言ったかと思うと両手で顔を被い、駆け降りるようにして階段を降りていった。僕は恥かしさで一杯になってしまった。思いあがっていた僕。いつもA君になんか負けないぞとA君を見下していた僕。この僕が合格してA君が落ちたとして、僕はA君を訪ねて僕だけが通ってしまってごめんねと泣いて慰（なぐさ）めに行っただろうか。ざまあみろと、よけい思いあがったにちがいない自分に気が付くと、こんな僕なんか落ちるのが当然だったと気が付いた。彼とは人間のできが違うと気が付いた。通っていたら、どんな恐しい一人よがりの思いあがった人間になってしまったところだろう。落ちるのが当然だった。落ちて良かった。本当の人間にするために天が僕を落としてくれたんだと思うと、悲しいけれども、この悲しみを大切に出直すぞと、決意みたいなものが湧いてくるのを感じた。僕は今まで思うようになることだけが幸福だと考えていたが、A君のお陰で、思うようにならないことの方が、人生にとっても、もっと大事なことなんだということを知った。昔の人は十五才で元服したという。僕も入試に落ちたおかげで、元服できた気がする。

この文は、40年以上も前に東井義雄先生が「ある中学生の作文」としてご紹介下さったものです。作者名は分かりません。東井先生は「待ち望んでいたことがやってきた時よりも、困ることがやってきた時に、本当に人間は人間になれるんじゃないでしょうか。」とおっしゃっています。

私たちは、たましいを成長させ

るために生まれてきた、と考えます。楽しいこと、悲しいこと、辛いこと、感動したこと等をいっぱい経験して豊かになるために。だから、つつがなく生きたら生まれた甲斐がありません。反対に、自分の思う通りの人生だったとしたら、煩悩が満足しただけで、たましいは成長できません。病気や人間関係などのさまざまな試練や経験を積むことは、たましいの本当の望みであり、生まれてきた目的であるといえます。

一般的に「救われる」とは「願いが叶う」「望んだ通りになる」ことを指すようですが、それは少なくとも「念仏の救い」ではありません。

私たち一人一人には、自分を見守り、許し、励まして下さる「大いなる存在」が必ずおられます。いつも自分に必要な学びを与えたり応援して下さっているのです。その存在は「阿弥陀」と名づけられました。

煩悩いっぱいの自分が待ち望んでいることと、たましいを成長させるために経験しなければならないことの間には大きなギャップがあります。その時に「思い通りにならない」と愚痴が出ます。しかし、その思い通りにならないことの中にこそ、たましいが学び成長するための最大の機会があるのです。

「元服」の作者のように、「思い通りにならない」現実を、「本当の人間にするために天が僕を落としてくれたんだと思う」と納得して引き受けること、これが本物の救いといえます。言い換えれば天＝阿弥陀の願いに気づく、理解して現実を背負うことです。

ただ、頭で分かっていても感情はついてきてくれません。その時に「これは自分のたましいを成長させるための試練なのだ」「阿弥陀さまからの激励なのだ」と自分に言い聞かせる言葉が「南無阿弥陀仏」なのです。だから口で称えて耳で聞くことが必要なのです。

南無はインドの言葉で「namo」＝最も大切な命令に従う」という意味です。現実を引き受ける勇気を奮い立たせてくれる言葉、これが念仏です。

人生に無駄なことは何一つ起こりません。すべての現実に「育ちなさい」という願いが込められています。その願いを受け止めて、成長するチャンスにしていくことが救われの道だと思うのです。

行事写真報告 7月から9月まで

お盆諸行事

13～15日お盆特別申し経　15日戦没者追弔会非戦の誓い法要・初盆会　16日盂蘭(うら)盆会・境内墓地萬燈会・お焚き上げ・南本郷墓地萬燈会・向畑墓地萬燈会

お盆
特別申し経

お盆
特別申し経

戦没者追弔会

境内墓地萬燈会

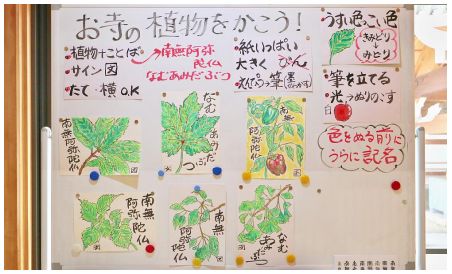
お焚き上げ

向畑墓地萬燈会

南本郷墓地萬燈会

児童夏の集い

8月20日35年目の夏。コロナ禍対応で宿泊なしの一日開催。ゲーム大会や清掃奉仕、今年は水彩画にも挑戦。子どもたちの熱気と歓声に溢れました。



永代祠堂法要
秋季彼岸会
乾 文雄 師

ぼた餅作り
恵信尼会Ⅱ

第31代
同朋婦人会

コロナチェック

梛野明仁師

ぼた餅作り
恵信尼会Ⅰ

合唱団

持ち帰り
お斎弁当

後片づけ

販売
コーナー

月例会点描

正信偈を学ぶ会

正信偈を分かりやすく学ぶ学習会。講師は荒山淳先生で7年目。19:00～。お話は毎回完結なので中途でのご参加も大歓迎です。

お灸を楽しむ会

楽しくお喋りしながら「ビワの葉温灸」を楽しみます。毎月13:30～と19:30～。年2回、三栄商会の横田和幸さんの実践的指導会があります。

健康料理教室

新鮮な旬の食材を使いコロナに負けない体作りを目指す料理の会。元気に楽しく美味しくと、とにかく賑やか。坊守担当。毎月9:30～。事前申込制。

本龍寺合唱団

仏教讃歌の歌詞を味わい歌に親しむ会。毎月14:00～。作曲家の平田聖子先生のご指導で元気に楽しく歌います。自由参加の自主練は毎週あります。

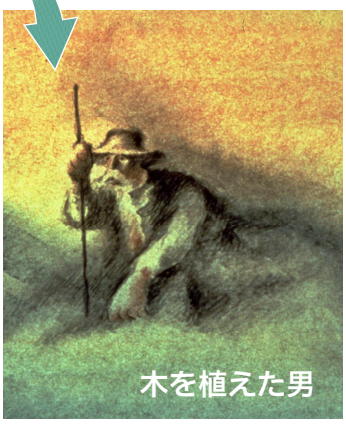
報恩講2022講師紹介

◆**三島多聞師**

昭和19年、岐阜県高山市生まれ。京都外国語大学卒業。大谷大学大学院修了。台湾師範大学研究院留学。中村久子女史顕彰会会長。現在、高山別院輪番。真蓮寺住職。

■**「木を植えた男」**　※1日(木)初夜勤行で上映

南仏プロヴァンスの荒れ地に人知れず木を植えた男がいた。一日に100個のどんぐりを植え、無事に育つのは10分の1。時には苗が全滅することも。絶望も二度の大戦も物ともせず30年以上の年月、ひたすら自分の仕事に打ち込んだ男のもたらしたものとは。上映時間30分。



◆**藤原千佳子師**

三重県桑名市生まれ。石川県能美郡浄秀寺前坊守。加賀の三羽烏といわれた義祖父の藤原鉄乗師に教えを受ける。著書『慈光はるかに』他。

◆**三河蓮如太鼓**

蓮如上人500回御遠忌を縁に岡崎市大平町専光寺が中心となり平成11年に結成された和太鼓チーム。蓮如上人を慕い「蓮如太鼓」を伝承する北陸門徒に倣って、自分たちも太鼓でお念仏の教えを次の世代に伝えたいと各地で演奏活動中。

◆**一楽真師**

昭和32年、石川県小松市生まれ。大谷大学卒業。同大学院博士課程満期退学。真宗大谷派・擬講。文学博士。大谷大学教授。本年4月から大谷大学学長。宗圓寺住職。

■**「いのちの授業900日ぶたのPちゃんと32人の小学生」**

※3日(土)子ども報恩講で上映

大阪の小学校に赴任した黒田先生はクラスで豚を飼い、最後はみんなで食肉にして食べる事を提案する。やってきた子豚はPちゃんと名づけられ、子どもたちは小屋作り、大量の餌の手配、糞尿の始末など苦労しながら交流を深めていく。やがて卒業が近づく日、Pちゃんを下級生に引き継ぐか食肉センターに連れて行くか、決断を迫られる。上映時間40分。

◆**鷹巣純師**

昭和40年、岡崎市生まれ。名古屋大学文学部卒業。同大学院文学研究科博士課程修了。愛知教育大学教授。中世〈鎌倉～室町時代〉にえがかれた地獄絵を分析し、その時代の世界観人間観を探究する地獄絵研究者。著書『地獄探訪』他多数。

拙寺には江戸時代の『和字絵入往生要集』に色を付けてお軸に仕立てたもの〈地獄物語・六道物語・極楽物語〉が伝わっており、御満座でその絵解きをして下さいます。

報恩講2022のご案内

令和4年12月1日(木)～4日(日)

12月	時 刻	勤 行 名	法 話 等	お斎＝食事
1日(木)	13:30	初 逮 夜	三島多聞師	
	19:00	初夜勤行	御 伝 鈔 「木を植えた男」	
2日(金)	9:30	初 日 中	藤原千佳子師	持ち帰り弁当
	13:30	中 逮 夜		持ち帰り弁当
	19:00	音楽法要 和太鼓コンサート	三河蓮如太鼓	
3日(土)	9:30	中 日 中	一楽真師	持ち帰り弁当
	13:30	大 逮 夜		持ち帰り弁当
	17:00	子ども報恩講 「いのちの授業900日ぶたのPちゃんと32人の小学生」	副 住 職	持ち帰り おにぎり他
4日(日)	9:30	結願日中〔楽〕	鷹巣純師	持ち帰り弁当

◆**同朋会館**の**受付**で**お斎券**をお受け取り下さい ◆**コロナ禍対策**としてお斎はすべて**お弁当**仕立で基本的に**お持ち帰り**を頂きます ◆お弁当の内容は**拙寺特製精進料理**です ◆勤行は参詣者全員にご参加頂くため『**本龍寺報恩講大谷派声明集**』の販売と貸出しをします ◆ご講師などの紹介は7ページをご覧下さい ◆**マスクの着用・検温・名簿記入・手指と会場消毒・非三密・換気**等徹底します

あとがき

第76号をお届け致します。

感謝の反対は当たり前ー。コロナのお陰でお寺の行事がふつうに出来ることの有り難さを今まで以上に感じています。どの会も一期一会。丁寧に楽しく、そして感謝して。〈頼〉